

Title	科学・技術の創造的発展のための基盤研究
Author(s)	三石, 祥子
Citation	年次学術大会講演要旨集, 23: 646-647
Issue Date	2008-10-12
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/7646
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般講演要旨

科学・技術の創造的発展のための基盤研究

○三石祥子（科学技術振興機構）

1. はじめに

（独）科学技術振興機構社会技術研究開発センターは、社会の具体的な問題の解決に寄与するために、幅広い関与者と協働しながら、研究開発および成果の利用・展開を推進することを目指している。

世界的に大きな時代の転換期に直面している現在、社会の具体的な問題を考える上で、日本の科学・技術に携わる人々とその共同体の精神・規範・文化について、歴史に学び議論をし将来を考える場が必要なのではないだろうか。このような問題意識のもと、社会技術研究開発センターは研究会「科学技術と知の精神文化」を設置し、2007年度より2ヶ月に一回程度会を継続している。

2. 研究会

この研究会は、阿部博之東北大学名誉教授の発案により発足した。研究会では、学問・科学・技術を取り巻く今日までの内外の言説、活動、精神、風土などについて、理科系だけでなく、科学史・哲学・歴史学・法学・政治学・経済学・文学などの多様なバックグラウンドの専門家と議論を行ってきた。2008年1月からは、(財)国際高等研究所とも連携をとりながら進めている。尚、社会技術レポートの一環として、研究会での講演をもとにした講演録を発行し始めている。

	氏名 ※敬称略	所属・役職	演題（またはキーワード）
第1回	村上 陽一郎	東京大学大学院総合文化研究科特任教授	科学の文化的背景
第2回	今道 友信	哲学美学比較研究国際センター所長、東京大学名誉教授	好奇心ではなく真理への賛美のあこがれを
第3回	石井 紫郎	東京大学名誉教授	「武士道」に見る日本人の思考パターン
第4回	平川 祐弘	東京大学名誉教授	和魂漢才と和魂洋才
第5回	野家 啓一	東北大学副学長・大学院文学研究科教授	科学技術の受容と日本文化の特質
第6回	姜 尚中	東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授	夏目漱石・ウェーバー 公共性とモラル
第7回	金森 順次郎	国際高等研究所所長、大阪大学名誉教授	歴史から見た独創的研究を生む環境
	吉田 忠	国際高等研究所フェロー、東北大学名誉教授	窮理と実測
第8回	有馬 朗人	日本科学技術振興財団会長、東京大学名誉教授	Symmetries in Arts , Culture and Nature
第9回	小川 浩三	桐蔭横浜大学法学部法律学科教授	16世紀人文主義法学とその学問的背景

表1. これまでの研究会における講演者と演題またはキーワード

3. 集中的な議論

2008年2月25日にはワークショップを行い、集中的に討論を行った。この模様をもとにした書籍の制作を行っている。

【ワークショップ概要】

特別講演 「西欧近代科学と日本」

村上 陽一郎（国際基督教大学大学院教授）※開催時の所属

セッションⅠ 社会の中の科学・技術

—政治・教育・文化などが学問、特に科学・技術の発展にどのような影響を与えたのか—

進行：村上 陽一郎（国際基督教大学大学院教授）

話題①「伝統と会通」

吉田 忠（東北大学名誉教授／国際高等研究所フェロー）

話題②「日本の科学技術文化の特色」

金子 務（大阪府立大学名誉教授）

話題③「中世の土木事業等と社会組織」

脇田 晴子（石川県立歴史博物館館長／滋賀県立大学名誉教授）

話題④「江戸のモノづくり—その風土・文化—」

鈴木 一義（国立科学博物館理工学研究部科学技術史グループ研究主幹）

話題⑤「独創的な研究を生む環境」

金森 順次郎（国際高等研究所所長／大阪大学名誉教授）

セッションⅡ 科学技術と知の精神文化

—新しい科学技術文化（仮称）の構築に向けた さまざまな議論—

進行：阿部 博之（東北大学名誉教授）

話題①「科学の進展における哲学の役割」

野家 啓一（東北大学副学長・大学院文学研究科教授）

話題②「明治の土地公有論—社会技術としての法理論—」

石井 紫郎（東京大学名誉教授）

話題③「統制と自由」

姜 尚中（東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授）

話題④「文化と科学—「すばる」大望遠鏡計画を推進して—」

小平 桂一（総合研究大学院大学学長）※開催時の所属

話題⑤「社会的共通資本の姿に見る科学技術と社会」

大垣 眞一郎（東京大学大学院工学系研究科教授）

4. 考え続けることの重要性

現在、日本の科学・技術の研究開発は、最前線に立ち、常に創造性を発揮することが必要とされる立場へと変化しつつある。従来の欧米の後追い型から、内発型へと大きな転換期にある日本の科学・技術の発展のために基盤となる、精神・規範・文化などについて常に考え続けること、そして、新しい時代にこれをどのように維持し、更には発展させてゆくかを考え続けることが、科学・技術の長期的な発展の幹になるのではないだろうか。

しかしながら、これまでの活動を通して、人文科学・社会科学研究者と理工学・医学研究者の議論の素地や筋道の差異の有機的な関係、ここ30年を客観的に振り返ることの難しさ、将来を考えるための研究会でありながら次世代を担う人々、その中でも特に科学・技術に携わる人々が我が身のこととして捉えるためにどうしたらよいのか、といった課題を抱えている。